

2022.1.27 ILC推進準備室副室長 様

c.c. ILC推進準備室WG3メンバー

岡田さんが今年3月に設立されるIU-REALの融合研究WGに参加されていることを伺いました。

そこでIU-REALでの以下のような連携（融合）研究そしてILCをその連携プロジェクトとすることを提案したいと思います。ILC有識者会議での議論からも指摘されていますが、学術界の広い分野でのILCプロジェクトに関しての理解と協力を得ることを目的としています。(1)~(3)の3項目ありますが、ILC推進は(2)です。

----

(1) 検出器、加速器技術、エレクトロニクス、ソフトウェアそして実験データの集約（データベース）とオープン利用：IU-REAL共通データベース、オープンアクセスの構築

例:Open source for open science at CERN, <https://home.cern/science/computing/open-source-open-science>

(2) ILC projectのアライнсを通じた学際的な理解（人文、自然、情報科学の広い分野）、それを下に学術会議、文科省などへ提言すること、学術研究の大型プロジェクトの戦略的推進：研究者コミュニティの合意形成に向けてコーディネート機能を担う。

真理探究という同一目標のもとで、LCプロジェクトをIU-REALの連携プロジェクトとすることを提案する。 ILC連携プロジェクトの研究課題として、

- (a) ネットワークを介した世界各地での遠隔データ解析・実験操作（ROIS）
- (b) 環境に配慮したグリーンILC，キャンパスのエコシステム（NIHU, 地球研）
- (c) トリチウム、X線など低放射線の生体への影響（NINS, 放射線医療・治療）
- (d) 古墳、埋没遺跡などの透視解析で量子ビーム（NIHU, x線、ミューオン、ニュートリノなど）利用
- (e) 大深度地下利用の実践的検証（NIHU, ROIS）
- (f) ILCなど世界的大プロジェクトの社会的意義- 科学史、科学技術社会論（総研大, NIHU）
- (g) 素粒子と重力波 - ILCとKAGURA - 真空一時相転移のsynergy検証（NINS, 国立天文台）

(3) 人材育成機能の充実：総研大 後期3年+2年（博士研究員）選択ではなく全ての総研大生を対象とすべき、任期後はそれまでの共同研究、特に加速器施設を利用した研究をベースとして世界の研究機関、民間企業への就職活動を支援する。

----

(2)の内容については思いついたことを書きました。

ILC推進準備室でのさらに具体的な検討を期待したいと思います。